

# 中国 IT 市場 ナビゲーター

## (8) 注目される「お財布ケータイ」

野村综研(上海)咨询有限公司

### ◇将来のキャリア収益源

上海移動のマーケティング専門家の話によると、今後、中国携帯電話市場において、収入が期待されるサービスは主に2つ。1つはケータイによるモバイル放送サービス(手機電視)であり、もう1つが、決済・金融サービス(手機錢包)である。前者は、通信事業者が放送分野に進出するものであり、後者は金融分野への進出だ。日本と同じく、携帯キャリアは音声サービスでの収益性維持は厳しい収益拡大のための業際分野への進出の例として、今回と次回で「手機錢包」について紹介する。



(聯動優勢社のHPのニュース記事から)

### ◇「手機錢包」の概要

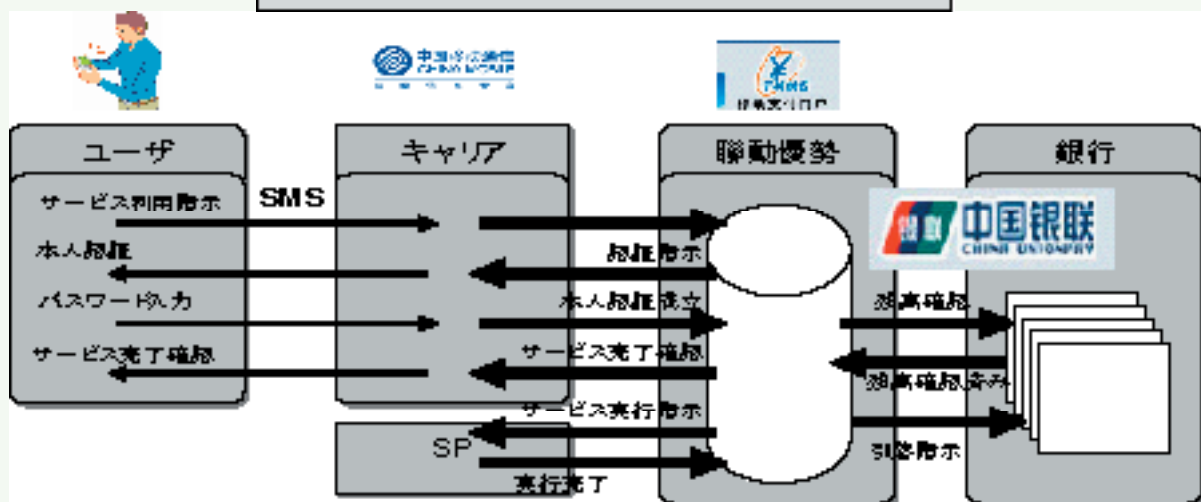
現在のサービスは銀行POS(銀聯)と連動して携帯から銀行への支払い指示を行う形で行われる。具体的には、ユーザーは、事前に、ユーザーの携帯電話番号と個人の銀行口座番号を登録しておく。支払いの時点で、ショートメッセージ(あるいはWAP)を介して、本人であること、銀行口座に残高があることの認証を行い、銀行口座からの即時自動引き落としで支払い作業を実現する。今のところ、主な用途はプリペイド携帯の料金充当、公共料金の支払いなどとなっている。

### ◇中国銀聯と合併、異業種参入

実はチャイナモバイルは、決済サービスについて過去に2度ほど足踏みをしている。2002年にある地方銀行と組んで現在と同様の決済サービスの実験を開始したが、政府の異業界サービス参入禁止令でサービスを停止。04年には毎月の通話料金請求書に加算する方式で通話料以外の回収代行サービス業務を展開。しかし、通信キャリアの回収リスク増大を考え、この業務も間もなく停止した。

今回は、中国の銀行POSの決済ネットワークである中国銀聯との合併の形により、異業種参入を認めてもらうとともに、即時の銀行引き落としを実現することで、信用リスクの増大を回避した。中国銀聯と中国移动の合併会社である聯動優勢科技有限公司は、オンライン支払いの第三者機関として、05年に本格的な中国式携帯金融サービスを一気に全国展開してはじめた。

“手機錢包”のサービス(プリペイド携帯の料金充当の場合)



次回はビジネスモデルと将来サービス展開について紹介する。(主任コンサルタント吉永欣栄 / 総経理 中島久雄)